

備前市事務事業評価表

事務事業名	市民会館管理運営事業		コード	03-02-04-02
			担当課・係	日生市民会館
			担当者	植田 学
			電話	72-1006
事業実施期間				
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり		
	中項目(基本施策)	生きがいのあるまちづくり		
	小項目(施策)	公民館		

事業について	
目的 (何のために)	市民の生活文化及び教養の総合的向上発展のため、及び福祉の増進に資するための場と機会を提供することを目的とする。
対象 (誰・何を対象に)	備前市民及び使用を希望する人
内容	貸館業務、公共的な催しの利用、各公民館で実施しているグループ活動の発表の場の提供

事業の結果								
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	回数など (単位)					
市民会館年間開館日数	307 日	296 日						
市民会館年間利用日数	286 日	274 日						
市民会館年間利用人数	28,055 人	24,119 人						
年間ホール利用日数	138 日	136 日						
年間ホール利用人数	10,861 人	9,297 人						
事業費 (単位：千円)	事業費		事業費		事業費		財源	
	直接事業費	12,643	直接事業費	10,081	直接事業費		財源	
	人件費	5,095	人件費	7,905	人件費		市債	
	合計	17,738	合計	17,986	合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.55 人	0.80 人	
結果指標名	ホール利用日数	ホール利用日数	
結果指標量	138	136	
単位	日	日	
対前年比	-	98.55%	0.00%
活動にかかるコスト	17,738,000 円	17,986,000 円	
単位当たりコスト	128,536 円	132,250 円	
結果指標名	ホール利用人数	ホール利用人数	
結果指標量	10,861	9,297	
単位	人	人	
対前年比	-	85.60%	0.00%
活動にかかるコスト	17,738,000 円	17,986,000 円	
単位当たりコスト	1,633 円	1,934 円	

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	市民が心豊かに生活するため、趣味娯楽のほかに文化的教養を深めることが不可欠であり、この事業はその場と機会を提供するためにつくられたもので、これにより市民が健康で生き甲斐を持って長生きできるとの成果を得ようとしている。		
成果指標名	ホール利用率	式又は説明	ホール年間利用日数 / 開館日数 市民のための文化の拠点である市民会館の最大の看板施設である大ホールの利用率は施設全体の利用率に等しく、利用の成果指標として用いた。
	17年度	18年度	
成果指標量	44.95	45.95	
対前年比	-	102.22%	0.00%
到達目標値	50%	到達目標年度	平成20年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	関係法令等で目的が定められており妥当である 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 事業開始当初の目的から変化しつつある 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 備前市日生市民会館設置条例
	対象の妥当性	受益者の拡大を検討する余地がある 受益者の縮小を検討する余地がある 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	市民、団体などから要望・要請のある事業である 市民に概ね好評な事業である 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
効率性の評価	市の関与の妥当性	国・県又は関係法令で定められている事業である 民間に類似サービスがある 本市が関与すべき事業である 事業を取り止めた場合の影響は大である
	コストの効率化	単位当たりコストは増加傾向にある コスト削減の努力をしている できる限り民間活力を利用している
	手段の最適化	最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている 他に有効な代替手段が見当たらない 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
有効性の評価	職場の効率化	事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている 事業に関するOJT（職場研修）は行われている 事業の進行管理を定期的に行っている 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい
	目的達成度	成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	成果は向上しており今後も向上する見込みである 今後、成果指標は向上する余地がある
市民参画度	市民参画度	事業について積極的に情報提供している 事業実施等で積極的に市民意見を反映している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている
	市民参画度	市民の文化・福祉向上を目的としていて、市が主催・共催・後援する行事は例年どおり開催されている。民間の企業によるホールを使う催しが長引く景気低迷により微減しているものの、会議室等は地元の住民・企業によく利用されており、公民館利用の文化活動等も従来以上に利用されており、住民ニーズに添えている。
市民参画度	市民参画度	市財政厳しい中、施設維持管理費削減を心がけ19年度予算で地球に優しく省エネにつながる冷暖房の方法を要求したが設備投資に多額の費用がかかることから断念した。冷暖房のうちホールの占める割合が高く、音響・照明についても老朽化して、取替部品が生産されていない状況で、同じ市内に市民センターにもホールがあることから、2館の連絡調整により効率的な利用方法も考えていかなければならない。
市民参画度	市民参画度	ホール利用日数割合は左記のとおり微増しているが、利用時間を開館時間で割った稼働率は14%にすぎない。引き続き広報紙・市のホームページ等で広報活動に努め稼働率を向上させるよう努力する。

平成19年度の状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	説明 市民のための施設であるが、市内はもちろん市外の利用希望者にも周知が必要となる。特に市外への広報活動は本格的に行えば多額の経費が見込まれるため、可能な限り経費を抑え、市や関係機関の広報紙・ホームページ等を利用しアピールする。	
目標値	結果指標量	150日	結果指標量	10,000人
	成果指標量		50%	

総合評価	海の端で塩害を受け発生する故障、老朽化による故障等が年々増加しつつあり、財政厳しい中、思い切った施策は取れない状況で、現在の施設を何とか壊れないように限られた予算内で修繕計画を立て、優先順位に従って修繕をし、上手に施設使うようにする。ホール利用は、市内の館と連絡調整を図り効率よく使用できるよう徐々に移行するよう工夫する必要がある。	評価区分 <A~E> C
------	--	--------------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	--	--	---------------------------------------

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	ホール使用行事の集約化、現施設のままで、できるだけ費用をかけずに長く存続させる計画・方針を打ち出す。	20年度以降	効率のよい維持管理が図れる。
有効性	施設利用の有効かつ低コストの広報を行う。	20年度以降	施設利用の稼働率アップが望める。